



長野県更生保護大会

安曇野市豊科公民館ホール

# 須高 保護 だより

第12号

令和5年3月1日

発行 須高地区保護司会

編集総務部

## 再犯防止の推進に向けて

長野保護観察所長 村木 康弘



須高地区保護司会の保護司の皆様、そして、須高保護区内の更生保護関係者の皆様におかれましては、平素から犯罪や非行のない明るい地域社会作りのために日々御尽力を賜り、誠にありがとうございます。心から敬意と感謝を申し上げます。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症が社会情勢に大きく影響し、更生保護におきましても、保護観察処遇における接触の確保や、“社会を明るくする運動”を始めとする犯罪予防活動の実施などに、大きな影を落としている状況にあります。

しかしながら、こうした困難な状況下におきましても、長野県の更生保護は、保護司、更生保護女性会員、協力雇用主等更生保護関係者の皆様の御尽力と関係機関・団体の皆様の御理解・御協力によりまして、安全・安心な長野県の構築に向けて、着実に前に進んでおります。そして、令和五年もその

歩みを進めるべく、より一層の再犯防止の推進に努めることとなります。

その鍵となるのが地方自治体による再犯防止推進計画ですが、県レベルでは、長野県におきまして、既に第二期の再犯防止推進計画の策定作業が進んでおり、市町村レベルでは、まだ未策定の地方自治体で、再犯防止推進計画策定に係る保護司会、更生保護女性会及び協力雇用主会の連名による要望書の提出や、自治体職員も参加した勉強会の開催などの動きがありました（なお、須高保護区内におきましては須坂市において再犯防止推進計画が策定されております）。保護観察所といたしましては、令和五年も地域における再犯防止に大きな力を発揮されている地元の保護司、更生保護女性会員、協力雇用主等更生保護関係者の皆様と連携し、お力添えをいただきながら、長野県の安全・安心のために再犯防止の推進に向けた動きを進めてまいりたいと考えております。

須高保護区の更生保護関係者の皆様のみならずの御健勝と御活躍を祈念いたしますとともに、引き続き更生保護に対する御理解と御協力をお願い申し上げます。



## 須高地区保護司会

会長 三木 一徳



令和二年一月、新型コロナウイルス感染症が国内で確認されて以来、三年経過しました。

その間、コロナ禍において、感染防止対策の徹底を図りながら、各種の事業活動やサポートセンターの運営等が行われました。

今年度、三年ぶりに開催された定期総会は会議のみで終了、社明の街頭啓発は縮小実施、同講演会は通知後、中止となるなど、実施に関し延期、縮小、中止等消極的な方向への選択に迫られた感がありました。

こうした状況の中、当地区保護司会にも、ICT化、デジタル化の影響が及び、コロナの動向とも連動し、これまであまりなじみのなかったリモート会議などの名称を頻繁に聞くようになりました。

一方、懇談・コミュニケーション等の機会は激減し、コロナの終息が期待されます。

また、コロナの動きとは別に、近年、刑法犯の認知件数及び保護観察開始件数がともに減少が続いています。

その一方で再犯率が上昇しているといわれており、犯罪や非行をした人

への息の長い対応が求められており、更生保護関係機関、地域、行政の連携した取組みに期待が寄せられています。本年も、地域の皆様に、更生保護活動に対して引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 須高地区更生保護女性会

会長 花岡 君江



令和になって早五年目、コロナ禍のため何の活動もできないまま、三年が過ぎてしまいました。役員会で、今年度の活動はどうしたらよいだろうかと相談しました。十五年以上須高地区の保育園に送り続けてきた記念品「愛の鈴」は、人の手を介して作ることについて心配だということ

で、今年は、押し花を使った「しおり」を作ったかどうかということになりました。幸いわが女性会の会員の中に「世界押花芸術協会会員・日本手芸普及協会会員・ふしぎな花俱樂部インストラクター」の跡部先生がいらつしやいますので早速相談させて頂き、しおりの作成を教えてくださいようお願いいたしました。そこからが大変でした。小布施町役場産業振興課に、高速側道にありますパンジーの花びらの摘み取り許可を申請し、承諾して頂きま

したの  
で、千枚  
位の花び  
らを集め  
ました。  
和紙の間  
に入れ  
て、重し  
をして乾  
燥するこ  
と一ヶ



ホゴちゃんしおり・座布団ゴマ

月。跡部先生のアトリエに保管して頂き、乾いた花びらをしおりの材料に並べて、ラミネート加工して、だんだんしおりらしくなってきました。そんな加工の過程を知らずに、しおりを作ることを簡単に考えたことは浅はかでしたが、先生のご指導で、素敵なしおりを作ることが出来ました。先生に感謝です。そして、「花とホゴちゃんしおりしおり」として、役員会で最後の仕上げをいたしました。三月の卒園までに「座布団ゴマ」と一緒にプレゼントしたいと考えております。きっと喜ばれると思います。

また、長野刑務所の受刑者の皆さんに最新の高校教科書、参考書等の書籍、更生施設裾花寮への激励金を贈り、更生のための支援をしております。

罪を犯した人たちは、それぞれの理由があり、自制心を抑えることが出来なかった人々です。そんな人たちにやさしい心が届き少しでも反省して更

生してもらいたいという願いから支援してきました。

私たちは母親として、子どもたちから大人までやさしい心で接していきたい、また、地域における犯罪予防や子どもたちの健全育成のための支援活動を行うボランティア活動しております。読書するときには、私たちの作成した「花とホゴちゃんしおり」を使って欲しいと願っています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 須高地区更生保護 協力事業主会

会長 大井 教雄



今年も、コロナの影響で数々の行事が中止になりました。予定を立てたソフトボール大会、会の行事も中止になり、これからも一生付いて回るコロナに、付き合っていかなければと思う気持です。

今後も保護司の皆様と連携をとりながら打合せをしていき、前のような体制になればと思う今日です。刑務所の所長さんとも、連絡を取りながら、ソフトボール大会が実現できるように、しっかりと連絡をと思っています。

今後、打合せを綿密に行い実現できるように頑張っていきます。



## 第72回「社会を明るくする運動」 第14回須高地区 作文コンテスト

### ◆小学生の部

▽最優秀賞 「社会を明るくする運動」磯貝侑飛Ⅱ小山6

▽優秀賞 「自分の身を守るためには」小玉真裕Ⅱ旭ヶ丘6 「明るい社会は身近な場所から」山岸佑夢Ⅱ仁礼6 「はく手のちから」飯沼 岳Ⅱ

高山6

▽入選 関百合奈Ⅱ小山6 黒岩侑眞Ⅱ日野6 田中優紗Ⅱ仁礼4 新野

文也Ⅱ仁礼6

### ◆中学生の部

▽最優秀賞 「笑顔でつながろう」中村茉侑子Ⅱ相森3

▽優秀賞 「明るい社会」にするために」徳竹十和Ⅱ相森2 「挨拶の持つ力」富沢健太Ⅱ相森3 「ほんの少しの勇気で」佐藤 良Ⅱ東1 「あい

さつ」土屋真優Ⅱ小布施3

▽入選 高橋依織Ⅱ相森3 植木信吉Ⅱ相森3 塩野叶実Ⅱ東1 徳竹羽

胡Ⅱ高山3 塚口怜衣Ⅱ高山3

令和4年度、須高地区作文コンテストが実施されました。磯貝侑飛さんと中村茉侑子さんの作文を紹介します。

小学生の部 須高最優秀賞

### 社会を明るくする運動

小山小学校六年

磯貝 侑飛  
ゆうひ

「おはよう」「おはよう」

ぼくとお父さん、お母さん、妹の芽咲の四人は朝起きたら必ず「おはよう」のあいさつをしています。朝起きた時なんとなく気分が悪くて「おはよう」のあいさつができない時があります。お父さんとお母さんはシーンとどまっ

ています。ぼくもシーンとした気持ちになります。あいさつをすると、いつもいい気持ちになるのに、たったの一つのあいさつをしなかっただけなのに、どうしてさらに気分が悪くなるのだろう、気分が悪くならないように必ずあいさつをしたいと思います。

お父さんとお母さんは、ぼくがなぜあいさつしないのかとたぶん心配だったと思います。「おはよう」のあいさつをしただけで、家の中が明るくなったり暗くなったりすることが分かりました。

ぼくたちが学校に登校する時、交通事故に合わないように見守ってくれている地域のおじさん、おばさんがいます。ぼくはいつも横断歩道をわたる時、感謝の気持ちを込めてあいさつをしています。おじさんもおばさんもニコニコしながらあいさつを返してくれます。あいさつをしない子がたくさんいます。おじさんとおばさんはどういう気持ちなのかな。ぼくたちのために安全パトロールをしてくれているのだ

からぼくたちが感謝のあいさつをしたら、喜んでくれると思います。ぼくたちが登校する時に横断歩道が明るくなります。

ぼくのおばあちゃんが話してくれたのですが、ぼくは小さい時、あいさつをするのが楽しくて誰にでもあいさつをしていたそうです。ぼくは覚えてませんが、お母さんがこんな話をしてくれました。ぼくが三才ぐらいの時、お母さんと二人で臥竜公園に遊びに行きました。そこに、九十歳ぐらいのおばあちゃんがいすにすわって、ぼくが大きな声で「こんにちば」とあいさつをすると、そのおばあちゃんが「まあまあ、こんな天国に近いおばあちゃんにあいさつをしてくれてありがとう」とニコニコと笑顔で言ってくれたそうです。この話を聞いて、ぼくは一人のおばあちゃんを喜ばせることができたのかなとうれしい気持ちになりました。あいさつは小さい子どもでも、人を喜ばせることができるまほうだと思いました。

明るい世の中にするには、まず身近な家族に対してあいさつをかかさず朝からして、気持ちよく過ごすことが大切だと思います。地域の人も、恥ずかしがらずにあいさつをして、気持ちよくなりたいです。地域から全国につながるあいさつをすれば、みんなが気分よくなって、明るい社会になっていくと思います。

ぼくは、「おはよう」「こんにちは」のあいさつが、争いのない世界につながっていくと思います。

中学生の部 須高最優秀賞

長野県最優秀賞

## 笑顔でつながろう

相森中学校三年

中村 茉侑子  
まゆこ

私は「笑顔」で人と人はつながることが出来ると思います。「つながる」という言葉を広げると「協力」や「親睦」や「一体感」などで、それらは「つながる」という言葉を支えている

ような存在だと考えます。これらを作る一つが「笑顔」になると思います。そう思う理由は私が実際に体験した話からです。

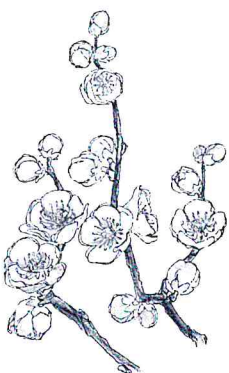
私が音楽会の伴奏を務める事となり、本番が近づくにつれて心配になってしまった時の事です。楽しみよりも不安や心配の気持ちが勝ってしまい「弾けるかな…」とつい口に出してしまいました。そんな中、隣に居た私の友達がそれを聞いていて、心配そうな顔をしている私に向かい、友達は明るく、笑顔で「大丈夫だよ、頑張ろう」と、そう言ってくれました。何故だか、あの頃の自分は分からなかったけれど、その言葉を聞いた途端になんだか晴れた気分になり、自分の心に余裕が出来た気がしました。何故気持ちがこんなにも一言で変わったのか後々考えたら、きっと心配な顔をしている私とは違い、友達は笑い、あの気持ちを吹き飛ばしてくれたからだとは思いますが、その後は伴奏はともうまう行き、心配で仕方がなかった私の顔も

きつと笑顔になっていたと思います。

それから私は心配や不安な気持ちが押し寄せて来た時は、常に笑っていいように心がけました。そして、心配や不安な気持ちが出来たら「大丈夫！」と笑顔で自分と接することが出来るようになった時に、とある授業で「心配」と言っている友達が居て、その子もあの頃の私のように心配そうな顔をしていました。私はどう声を掛ければいいのか迷いましたが、やはりあの時、音楽会の時の友達がしてくれたように、笑ってその子の心配な心を支えられれば、と思い「大丈夫。きつと上手いくよ！」と笑いかけました。その言葉に友達は「そうだよね、ありがとう！」と言ってくれました。私はとても嬉しく思い、お互いが笑顔になりました。これで私はその子と親睦が深まったと感じ、つながることが出来たのだと感じました。

この私の実体験から「笑顔」は人をつながれる「魔法」というような捉え方が分かりやすいと思います。今でも

笑顔という表情は笑っている本人も、またそれを見て他の人も笑顔になれるので、とても素敵なものだと感じます。でも一つ、今の状況から言えることは新型コロナウイルスの影響でマスクをつける生活になり、表情がつかみにくく感じます。そんな今だからこそ「笑顔」でいるということはとても大切だと思います。ですが笑顔はもちろん、笑顔でいられる環境づくりも重要になってくると思います。笑顔でいられる第一条件が環境だと思うからです。笑顔でいられる環境づくりについて考えつつ、少しでも近い将来を優しく、そして笑顔が絶えまなく溢れ、笑顔でつながれる。そんな社会になるよう未来を託された私たちからもそんな日常を作っていくことを忘れず日々生活していきたいです。





## 初事例を終えて

保護司 嶋倉 崇雄



私が保護司に任命されたのは、二〇一八年の十一月でした。その三年前に長野県野刑務所の教誨師に就任し、被収容者の皆さんに会いお話しする奉仕をしていました。先輩僧侶の推薦で保護司も受けていたのだと、この要請でした。二足のわらじは、お互いの研修での学びが反映する事も多く有意義と感じていました。ちよつと忙しいのですが、

お陰様で昨年十一月に三年間の保護観察の方のご縁が終了しました。初めて面接では、緊張して遵守事項の確認もたどたどしい事でしたが、研修で学んだ通り「保護司は皆さんに寄り添うボランティアです。何でも話してくださいね。」と言って自分が落ち着いていた事でした。その後は、仕事の事、生活の事など世間話をしていたので、先輩のアドバイスで「ここはお寺です。お経に興味あれば一緒に称えましょうか?」と言うと、是非にと思えられたので本堂で毎回読経するようにしました。

保護観察が終了しても何もありませんが「お陰様で昨日一区切り付きしました。三年間お世話になりました。今までの面接の事を心に留めて今後過ちを繰り返さないよう生活していきたいと思っています。また、機会があればお寺に伺いたいです。本堂にありがとうございました。」とのラインが入りました。有難い事でした。

## 保護司として思うこと

保護司 小林 晃



令和三年十二月一日、長野保護観察所の一室で行われた任命式から早一年が過ぎました。

緊張の中で研修を受け、その任の重さを実感し、「エライものを受けてしまった」と後悔したことを鮮明に覚えています。それでも、よく知った新任保護司の方がいたのは若干の救いであつたと思います。

その後、何回か研修の機会はありませんでしたが、コロナの影響で予定が変更になったり、中止になったりと、実際は私の保護司としてのスキルは未成熟のままです。

ちょうど、WOWOWで新米保護司をモチーフにしたドラマが放映されたのは観ました。NHKでも同時期にドラマが放映されましたが、これは残念ながらBSだったため未だに観ることはできていません。いずれも「保護司とはなんぞや」をイメージするには、時期的にもよかつたのかもしれない。が、しかし、自分事としての実感はありませんし、不安も解消されておられません。

保護司をお受けしてから自分を取り巻く環境が大きく変わり、実は保護司としての時間を割くのも難しくなっています。正直なところ、この後も「何事もなければいいな」と思いますが、もし万が一の時は今までの少ない体験や経験を活かして世の中のお役に立てればと思っているところです。

## 新任保護司の活動報告

保護司 坂田 正夫



令和三年十二月一日付で辞令を受け引き続き新任研修が行われました。何の知識のない小生は、研修が進んでいくうちに

に辞令の重さが増し後悔で内容が入ってこなかった事を鮮明に覚えていきます。その上、世の中はコロナ禍で研修が中止になり、行事が中止になり先輩の方々と話す機会もなく依頼がこなければと日々思っておりまして。そんな中、八月に生活環境調整を受け持つ事となり、担当官のアドバイスを受け初回のみ先輩保護司の方に同行してもらい進めて頂きました。事前打合せの時、資料を読み込み、それぞれの立場で心情や考えを自分なりにまとめたシナリオを頭に入れ望む事が大切と教えて頂きました。

面接当日、緊張されている家族の方々が、先輩保護司の方のマジックにかかったかのように、緊張がとけていく様子がみてとれ、自ら話される様子に感動した事を忘れられません。担当となったからには、どれだけ本気で臨めるかが重要と教えて頂きました。十二月には、別件で一人で生活環境調整を引き受け、教えて頂いた事をもとに臨みましたが反省する事が多く、難しさを感じました。

今後、何かあるかわかりませんが、辞令を受けた事に後悔はありません。須高地区保護司会の一兵卒として宜しくお願い致します。

## 保護司二年生

保護司 関 政雄



保護司の仕事はよく分かってもらえないのにお引き受けて、一年が過ぎました。コロナウィルス感染症が収まらない中、基礎的な研修も中止や延期が続く、「何も分らないうちに担当することになった」と、『ながの保護だより』を受け取る度のため息している初心者です。

昨年、保護司の辞令をいただいた席で、有村架純主演の映画『前科者』をご紹介いただきました。主人公は、コンビニで働きながら保護司として活動しており、若いながらも何人も担当しているベテラン保護司です。しかし、真面目だった一人の対象者が突然行方不明になり、殺人犯として警察に追われることになるというサスペンスです。

映画としてはとても面白かったのですが、保護司を引き受けてしまった自分事として考えたら、保護司の仕事の重さに不安を掻き立てられるストーリーでした。





## 令和四年度年間活動報告

新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの事業が中止等を余儀なくされる中、感染防止対策をとりつつ、次のとおり行われました。

- ・定期総会 三年ぶりに開催（五月）
- ・須高地区社明推進活動 須高地区推進委員会開催（六月）、規模を縮小し街頭啓発活動を実施（七月）
- ・社明講演会 実施通知後、コロナの状況変化を踏まえ中止（八月）
- ・須高地区作文コンテスト 昨年度に引き続き実施。表彰式（中止）
- ・県更生保護大会 昨年度に引き続き、縮小開催され、少人数で参加（十月）
- ・地区別定期研修会 第一期研修（五月総会後）、二期研修（十一月）開催、三期研修を二月開催
- ・サポートセンター運営 毎週月水金十時から十六時まで企画調整保護司駐在、企画調整会議を毎月開催、面接等にも随時利用
- ・須高保護だより第十二号発行（三月）
- ・通年 各部会開催（総務、犯罪予防、研修、協力組織部会 随時）

## 令和四年度須高地区保護司会

## 部会報告

## 総務部会

部会長 三木 一徳

コロナ禍の中、今年度は、三年ぶりに定期総会を開催しました。理事会、部会は、定例企画調整会議の後、必要に応じて実施、社明の推進会議など各種会議もなんとか実施できました。須高保護だより第十二号も、例年ど

おり六頁版で発行できました。しかし、総会、社明の街頭啓発などの主な行事に例年ご参加願っている関係の方々については、感染防止の上から、参加数を絞らせて頂きました。このような状況の中、関係団体、会員相互間のコミュニケーションを深める機会が激減し、その確保も今後の課題になっています。

## 研修部会

部会長 西原ちえ子

コロナ禍となつて三年。昨年に引き続き地区外研修、社会を明るくする運動須高地区講演会は感染状況を踏まえ、中止とさせて頂きました。地区別定期研修は感染予防対策を講じて実施。第一期「改正少年法等」について、第二期「被害者対策」について研修しました。そして第三期「面接」について研修しました。研修で学んだことを生かしながら対象者と信頼関係を築き、被害者の心情に寄り添って、更生保護の一役を担えたらと思います。

## 犯罪予防活動部会

副部会長 町田 榮司

今年も十四回目になる須高地区の作文コンテストが小学校中学校の皆様に夏休みの課題として行われました。休み明けに審査会を開き、参加作品二百十二点の中より小学生の部で優秀作品八点、中学生の部十点が選ばれました。どの作文も体験をもとにした作品であり文章も素晴らしく選ぶのに苦労をしました。例年一月に開催されていた表彰式は昨年に続き今年もコロナの関係で中止となつてしまいました。が来年こ

そ式で子供達をほめてあげたい思いで一杯です。

## 協力組織部会

部会長 野平 芳一

「協力組織部会」は、文字通り関連組織である「更生保護女性会」「更生保護協力事業主会」と協力・連携し、「保護司会」と三位一体で保護観察者を就労支援する役割を分担しています。再犯を極力少なくするための就労支援は、社会全体の責務でもあります。但し、事業主会と保護司会の連携や情報共有が不足しているため、十分な就労支援が図られていないのが現状です。今年度は、部員十一名が、兎のように、耳を大きくし、情報の共有を図りたいと考えています。

## 第67回

## 長野県更生保護大会

令和四年十月二十一日、安曇野市豊科公民館ホールにおいて開催されました。今回もコロナ感染防止のために参加人数を一〇〇名に抑えて、受賞者二名と会長の三名の参加でした。開会式前バイオリンとピアノの演奏で心が癒されました。安曇野地区保護司会の活動報告がありました。

引き続き顕彰式典が行われ、須高地区から次の方々が受賞されました。法務大臣表彰・関東地方更生保護委員会委員長感謝状

花岡君江

長表彰

長野県知事表彰

町田榮司



保護観察所感謝状  
今井昌毅（協力事業主会）  
長野県保護司会連合会長表彰  
原 憲一 篠塚真一 黒岩隆弘  
受賞者の皆さん  
おめでとうございます

## 保護司の異動

◎退任保護司  
小松善正（令和四年五月二十四日付）  
佐藤育子（令和四年十一月九日付）  
長年のご活躍に心より感謝を申し上げます。

◎新任保護司  
青木正宏（令和四年五月二十五日付）  
久保田隆生（令和四年五月二十五日付）  
今後のご活躍をご期待申し上げます。

## あとがき

古希を過ぎた頃より、年ごとに体力・気力の衰えを感じるようになってきました。皆様は、ご機嫌ようお過ごしでしょうか。歳をとると怒りっぽくなり、些細な事にも声を荒だてるようになるそうです。そういうえば「人間万事塞翁が馬」であり、心して心穏やかに過ごしたいと考えております。お体をご自愛なされて、いつそのご活躍を祈念申し上げます。原稿をお寄せ下さいました皆様ありがとうございました。（総務部）